民報 藤島

2025年 4月27日

第1492号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一（宝徳）
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221

ＨＰは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい
（月２００円程度）
4月 32人 23,600円
3月 36人 24,510円

ふじしま観光協会の理事に庄農生
高校生の提案力の発揮

ふじしま観光協会(佐藤智信会長)の令和7年度総会が21日、出羽商工会藤島支所で開かれました。

トートバック

会では、藤島地域の3大まつり（ふじの花まつり・夏まつり・秋まつり）への支援を始め、藤島イルミネーション・イベントなど、地域の魅力発信の多彩な事業に取り組んでいます。

観光PRグッズでは、国史跡に指定された「旧東田川郡役所」と「旧郡会議事堂」をモチーフに、トートバックを作成し、東田川文化記念館と観光協会で販売しています（写真下・税込1100円）。

高校生が加わる

新年度では、新たに協会の理事に、庄内農業高等学校の生徒を加えることが提案され、承認されました。

これまで、同校の「庄農うどん」など、地域連携事業を進めてきました。

酒井孝校長から、同校の生徒が加わることによって、「生徒の学びの機会」と「生徒の提案力の発揮」に繋がるとして、賛同の話がありました。

旧町村で花火

今年は平成大合併から20年。鶴岡市は記念事業の一環として、旧町村ごとにイベントに合わせて花火を上げるとのこと。

4月12日の羽黒・松ケ岡桜まつり、5月10日の藤島・ふじの花まつり、6月は温海・ばら園まつり、7月は朝日・夏祭り、櫛引地域は現在検討中。

各地域で2号玉50発、3号玉20発、4号玉5発の2～3分の打ち上げが予定されています。

ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

語り継ぐ「私の戦争体験」鈴木雪子③

本部の指示に従い、荷物と子どもを連れてどのくらい歩いたでしょうか。着いた所は2階の大広間でした。

着いて間もなく私は産気づき、みんなが持ってきた荷物を大広間に積んで間仕切りし、産室をつくり午後1時頃、無事女の子を産みました。

気のせいか夕方には外のトイレにも行くことができ、翌日また別の避難所に移動することになり、遅れてはならないと歯を食いしばって子どもの手を引き、赤子を抱いて歩きました。

避難生活

落ち着いた所は元特務機関の建物で、地下室もあり産後の休養と、子どもと一緒に過ごす事ができ、何も心配ありませんでしたが、みんなごろ寝の生活で、風呂もなく、不潔のあまり蚤虱（のみしらみ）がわき、伝染病の薬もなく、次々と死んでいくのです。

忘れもしません11月5日、避難所で産んだ女の子が、わずか80日でこの世を去ったのです。初めは母乳もありましたが、影響失調のため母乳も出なくなり、米の汁さえもなく、どうすることもできませんでした。

アジョウへ戻る

昭和20年11月も終わりに近い頃、食料難のため、病気の人を残して、丈夫な人だけアジョウの避難所へ戻ることになり、私はその頃丈夫だったので再び避難することになり、親戚の人たちや長年苦楽をともにした人たちとも別れなければなりません。

『お互いに生きて祖国の土を踏むまで頑張ろう。そして故郷に着いたらみんな引き揚げる日を待っている』ことを伝えて欲しいと、申し合わせたのです。私は子どもを連れて再度アジョウへ非難したのです。

11月もなると満州の寒さは想像もつかない寒さです。その頃は栄養失調と寒さのため、長い道のりを何時間かかったでしょう。10里もあろうか、着いたのは夕方近くでした。

着いてみるとそれは想像以上の悪条件で、兵舎の跡で窓枠は外され、藁（わら）こもで囲んだあばら屋でした。食料も少なく、こうりゃんのお握り一人1個づつ塩を付けたままで、おかずや汁も味噌もない、しかも朝晩2食しかありません。子どもはおなかをすかして泣き叫ぶし、寒くても掛けるものもありません。

蚤虱の媒介で発疹チフスや周期熱で、今までそばに寝ていた人たちが次々と死んでいきました。

（つづく）

ふじしま生き生きクラブ総会
7月17日に創立60周年記念式典

佐藤博子会長

議長の渡部孝子さん

鶴岡市老人クラブ連合会藤島支部（ふじしま生き生きクラブ）の総会が22日、藤島ふれあいセンターで開かれました。

２０１５年に市連合会に統合しましたが、現在は藤島地区（中町・下町・野田目・須走）４クラブ１１１人と、八栄島地区４クラブ１６７人の計２７８人の会員にとどまっています。

事業では、グラウンドゴルフ大会や会員作品展、市老ク連のワナゲ大会、ふれあいの旅など多彩に行っています。

総会では、会員数の減少が続く問題も出されました。

今年は創立60周年にあたることから、7月7日に記念式典を開催する計画です。

自身の調査も進んだこともあって、書き改め、遅くとも今年中に冊子にしたいと思っています。

なお、これらの石碑の文化財の位置づけを検討して欲しい。

いずれも東田川郡が取組んだ歴史を文字で語っている。

歴史は総合的なもので、プラス・マイナスを基本としている。

『駐蠻之碑』は明治天皇巡幸記念碑であり、天皇絶対政治をつくる基礎づくりであったのが、彼は食糧庁長官を辞めて知事になったと覚えている。今はそんな名前の長官は居ないんだろうね～。国会の答弁にはそんな名前が出てこないからサ。

▲だからだろうか。瑞穂の国の主食の「米が無い」という大変な事態になっているんだ。

▲去年の夏ごろから足りないという声はあったが、もうすぐ新米が出るから大丈夫といっていた政府。あの頃から備蓄米を出して、新米でそれを補っておけば、今頃こんなに騒がしくなっていなかったろうに、と思うが。

▲そして、勿体つけて渋々出した備蓄米。それがまだ小売店に届いていない所があると。だから、追加で備蓄米を出すと言っているが、何時になったら潤沢に店に並ぶんだ?長らく減反を押し付けながら、米が足りないとは。ひどい国だ。（石川）

で、マイナスを示すものである。

このような石碑の多くは、戦前「聖蹟」として尊重されたが、戦後新憲法にそぐはないとして指定解除されている。

なお、旧東田川郡役所・旧東田川郡会議事堂、及び旧東田川電気事業組合倉庫は、１９８９年から復元工事を行い、１９９５年に完成。東田川文化記念館として活用され、今年は30周年になる。

東田川史跡物語
『東田川史跡物語』を終えて
青山 崇

東田川史跡にある『駐蠻之碑』『稲作改良碑』中心の連載を始めたのは、『民報』２０２３年6月18日付「東田川史跡物語　史跡が語るもの・私たちの思うこと」であった。

それからほぼ2年、事情から山形市に移住、それに免許返納などと調査の障害が起り、現場に足を運べない状況の中なので、多くの人に無理なお願いをし、それでも未だ未だ不十分であるが、一応締めることにした。

こういう拙文をこれまでご愛読いただいた方々に感謝申し上げたい。

連載中に多くのご教示をいただき、また私

きびちょ
米が足りないとは

ナンボの頃からだろうか、親父が引くリヤカーと言っても、ゴムタイヤでない、鉄の輪っかの車を押して倉庫に行ったものだった。3反歩百姓だから、何俵積んでいたか。その頃は米を出す事を、「供出」と言っていた記憶。では、「供出」とはなんぞやで広辞苑を。

▲「主要食用農産物を生産農家から政府が強制的に提供させ買い上げること。」「食糧管理法に基づく。」と出ていた。主要食糧は政府が管理していたんだ。今はその法律がない。という事は、国民の主要食糧に政府が責任を持っていないという事か。なぜだ。ならば、誰が責任を持っているんだ。

▲だって、農林水産省があって大臣が居るんだ。昔の我が県知事に長く安孫子さんが居た

動けば変わる
意見・要求を
政治へ

政権与党が過半数割れとなって、国民の要求が通る可能性が開かれました。

市政も同様に、声をあげれば変わります。体育館のトイレが壊れたままだなど、意見・要求をお寄せください。

あなたの声を届けます

氏名
連絡先
切り抜いて、共産党市議団や民報配布者にお渡しください